

ねんりんピック紀ノ国わかやま2019を終えて

監督兼引率 金沢市 越川裕一

今回、監督兼引率として「ねんりんピック紀ノ国わかやま2019」に参加しました。5月のゆーりんピック弓道交流大会で派遣選手が決定し、当初、落の福井先生に監督をお願い致しましたが、監督と引率を兼務出来る事が判り、射に専念して戴くべく私が監督と引率を兼任させて頂きました。

6月から6回の合同練習を行い、今年こそ決勝トーナメント進出を！と大会に臨みましたが、本来の実力・普段の中りが出ず予選敗退となりました。今年も、立順5番(3立目)と早い立で、競技開始時には控に入っていました。しかし、言い訳には出来ません、今年の優勝は立順1番のチームでした。全国大会という雰囲気呑まれてしまったのでしょうか？合同練習の調子が良かっただけに残念でした。合同練習にお付き合い頂いた方々、練習会場とさせて頂いた内灘町弓道協会の方々有難うございました。

今年の大会の開催要領では、大きな変更が3点ありました。

- ①選手登録のない監督は、交流試合及び交歓試合に出場出来ない。又、高齢者表彰の対象とならない。
- ②制限時間に射残した矢は失権とする。
- ③決勝トーナメント進出の上位16チーム決定で同中の場合、予選出場選手10名の合計年齢の高い順とする。

①は、昨年揉めた点を明文化したのですが、「チーム編成は監督1人・選手5人・交代選手2人以内の合計8人以内とする」と謳いながら、「規定の選手数である7人を超えて選手登録は出来ない」ので、チームの一員として参加しても弓を引く事が出来ない事となってしまいました。監督会議でも変更が次回以降に踏襲されるのか危惧する意見が出されました。②③は、今回の会場の選手控と弓道場が離れており、バスで移動する点と競技時間を短縮したい運営上から出てきた変更です。②は制限時間を設定した場合、当然の変更と考えられます。③は時間のかかる決定競射を行わなくて良く、今後も採用されると思われます。

もう次のねんりんピック岐阜2020(清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪)に気持ちを切り替えています。10月30日(金)～11月3日(火・祝)の期間(移動日含む)で、弓道は岐阜市です。「岐阜メモリアルセンター(で愛ドーム)」に特設射場を3射場設け、予選は3射場・決勝トーナメントは2射場を使用する予定と聞いています。岐阜へ行きましょう。

ねんりんピックに出場して～一本の重み

金沢市 針田 朗

開会式、多くの園児が旗を振りながら一生懸命に声援をくれた。園の先生に言われての声援だろうが、園児たちの純粋な応援が身にしみる。ラグビーワールドカップの日本チームはさぞかし地元サポーターの声援が凄い励みになっただろうなど実感する。

大会当日、控えと射場が離れていてバスで10分程度の移動時間があると聞いており、正直イヤだなあと感じていた。でも、実際は大会運営スタッフの方々は非常に親切で、選手達に気持ちよく弓を引いてもらおうという気持ちが伝わってきてありがたかった。そして、

いよいよ準備に呼ばれ、弓道場へ。5人立が余裕で2立、非常に立派な道場で、審判席には写真や動画でしか見たことのない佐竹万里子先生がいる。

その瞬間、こんな立派な舞台で弓を引ける事に対して感謝の気持ちが湧いてきた。合同練習に付き合ってくれた越野会長をはじめとする先生方、県庁で開催された壮行式に駆けつけていただいた先生方が思い出され、いろんな人達に支えられて弓を引ける事に今更ながら気付かされた。当てよう、当てたいと固くなっていた心が溶けていくのがわかった。こんな舞台で弓を引けるなんてなんて幸せなのだろう。当りに囚われて無様な射をするくらいなら、当たらなくても稽古通りの射をやろうと素直に思えた。

結果は8射5中、1立目に皆中できたこともあり、7本目までは納得の射ができた。でも、最後の1本は、当てなければと思ってしまい、6時に外した。これは悔いが残った。チームとしては16中で予選通過はできなかったが、トータルとしてはいい経験が出来たと思った。

しかし、予選が終わった数時間後に、私と同年の従兄弟が、くも膜下出血で息を引き取ったとの連絡が入った。もし、これが私の身に起きたとしたら、あの8本目が私の生涯最後の射となっていたことになる。そう思った瞬間、自分の甘さに打ちのめされた。改めて試合を振り返ると、これが最後とわかっていたら、もっと何かできたのではないかと思えた。

和歌山から帰って、心掛けていることがある。当りに囚われることなく、現状のベストを尽くそう。明日から弓が引けなくなる可能性があるという事を認識して悔いのない日々を過ごそう、無駄な射はしない。

和歌山から帰って、一本の重みが桁違いに重くなった事を実感します。まだ、明確ではありませんが、気持ちの持ちようがいい方向に向かいつつある予感がします。さらなる成長出来るよう、弓に打ち込んでいる今日この頃です。

金沢市 小西文子

ねんりんピック紀ノ国わかやま2019弓道交流大会に参加させて頂きまして有難うございました。

弓道場は、射手間隔を180cm、五人立を二射場取れ、大変立派な美しい道場でした。床の感触も快く、天候も申し分ない良い天気でした。弓を引くには最高の場でした。ただ、選手控えの館は道場より、バスで移動しなければならず、テレビでの観戦なので、臨場感は薄く、物足りない時間でした。

選手控室では大会参加のもう一つの目的である他県の選手との交流を務めることにしました。五県の方たちに声をかけさせて頂きました。又、思いかけず私を訪ねて来て下さった、監督として参加の向原先生に逢えた事は大変嬉しい瞬間でした。弓仲間に見えるのは嬉しい時間です。また、富山県のグループの方たちとお茶を頂きながら近隣の親しみも重なって30分も話し込んでしまいました。競技に参加して戦わなければならないのに、戦う気力が薄くなってしまった私の大きな失点となり反省となりました。

ねんりんピック紀ノ国和歌山2019に参加して

七尾市 谷口 茂樹

今回ねんりんピック参加という滅多に出来ない経験が出来て大変光栄でした。

バス5台もの多勢で谷本知事にも激励して頂き、石川県代表としての責任を感じた瞬間でした。開会式前夜のパーティーも大勢で闘志が湧いて来ました。また、総合開会式は全国から集まるとはいえ1万人を超える規模で、こんなに大きな大会だとは正直思っていなかったのが感動でした。

初めて行った田辺市での弓道・合気道の合同開始式で、田辺市の歴史や合気道が発祥地だと知って興味深かったです。

一番印象に残ったのは、たくさんのボランティアスタッフが動員されており、大変だっただろうと思い、またその人達に支えられて出来た大会だと感謝です。

予選落ちして残念でしたが、機会があれば・・・と思い練習に精進したいと思います。

ありがとうございました。

ねんりんピックに参加して

津幡町 吉本直正

6月には弓も新調し、日々練習に励み、準備万端整えて---「いざ！」
ということで本番に臨みましたが、野球なら直球勝負をしたつもりが、カーブあり、スライダーあり、不可思議なナックルボールありで、ストライクがなかなか入らない。

気持ちも落ち着いていたのに、なぜでしょう。つくづく弓は、難しいと思いました。
半年間試行錯誤してきたことが、当日はできませんでしたが、その蓄積は、無駄でもなかろうと自分を納得させております。いつか、ピタリと収まる時が来ることを信じています。

それにしても、華々しく凱旋する予定であった帰りのバスからは、降りにくかったです。

津幡経由奥能登行き。お世話いただいた皆様に申し訳なく、「このまま、シベリヤまで行ってくれ。」と思いました。

全体としては、県内外のいろんな方とお話し、概念を覆すような立派な田辺市弓道場の施設を的場の中まで見させていただき、とても楽しいものでありました。

関係の皆様にご挨拶申し上げます。

ねんりんピックに参加して

能美市 福井謙秀

「あふれる情熱 はじける笑顔」のねんりんピックわかやま2019に参加できた幸せを、今噛みしめています。総合開会式や競技開始式のすばらしさや、緻密な大会運営などに見られる心配り。「おもてなし」の暖かさ。「まだまだお若いですよ。頑張ってください。」とか、「お疲れさま。精いっぱい楽しんでください。」とかとされているようで、とても嬉しく感激しました。

そして、選手に推薦いただいていたほぼ半年間の稽古を通じ、監督や役員の皆さん、チームメートの皆さんに御指導頂き、大会期間中もフランクに接して頂き、寝食を共に出来たことに、貴重な経験をさせて頂いたと、心から感謝申し上げます。

さて、それにつけても、私の不甲斐ない結果はどうだ。予選通過ならず。競技が終わり、控えに帰って来た時の越川監督の小さなため息がぐさりと胸を刺す。他県の方

に「石川県は素晴らしいですね。ねんりんチームはどうか。」と問われて正直答えようがない。

露天の温泉につかりながら、夕暮れの気配が漂い始めた和歌山の青い空を見上げ、悔しさを噛みしめた。メンバーのみんな。一緒に稽古して下さった方々。激励下さった方々。早朝、寒さの中を見送って下さった方々を思い起こし、本当に申し訳ない思いで一杯でした。

稽古の方法や心構えについて、「落」という役割等について、今一度考えてみたいと思っています。これからもご指導賜りますよう宜しくお願いいたします。

志賀町 松平玄三

11月12日午後6時30分、富来行政センター前到着、田辺市から10時間30分の移動時間でした。無事に帰ることができ、お世話頂いた皆様方に感謝申し上げます。

さて、交歓試合参加について、立順が1番立の1番と開始宣言直後の入場となりました。気の弱い自分に石川県代表だと言いつけ、的中はともかく所作をしっかりと、交歓試合に臨みました。言いつけたお陰か記念品を受け取ることができました。

また、寝食を共にすることで、気楽に話せる弓友ができたことや、全国の方との交流等大変有意義でした。

出発前、県庁前で弓道連盟の先輩諸氏から「大変いいよ」「楽しんできまっし」の温かい言葉の意味があらためて理解できました。

6月12日より、月1回の合同練習、所属協会での個人練習と6ヵ月間、射技向上の目標に向かって、珍しく懸命に努力した気がします。意欲への高まり、あらゆる細胞の活性化など、精神的に肉体的にリフレッシュしたように思われます。老いを遅らせたような有難い刺激でした。

古希を過ぎた歳になって「ねんりんピック紀ノ国わかやま2019」に参加させて頂き、弓の道への意欲、健康づくり、生きがいづくりの新たな発見をする有難い機会となりました。

石川県弓道連盟、ゆうゆうクラブの皆様方、そして、志賀町弓道協会の皆様方に心より感謝申し上げます。

ねんりんピック紀ノ国わかやま2019に参加して

志賀町 大岡 美智子

11月8日、早朝に志賀町役場から乗り合わせ、県庁で県知事さんや関係各位の声援と激励、弓道連盟の皆様の温かい励ましの言葉で見送られ、いざ和歌山へ出発です。

道中・総合開会式共に天候に恵まれ太平洋側の温暖な気候を実感しました。

和歌山での宿泊では福井の方と同室となり、立順の関係ですれ違いが多い中でお話しできたことも大きな思い出です。

大会初日の午後からは交歓試合に参加、会場の雰囲気には圧倒されつつ、一番立の松平さんについて行こうと、合同練習で教えていただいたことを忘れずにと心して、悔いのない弓を引こうと思い、無我夢中で立ちに臨みました。結果は羽分けでしたが、全国の弓友が集うねんりんピックの一端に参加できたこと、多少ではありますが他県の弓友とお話しできたことは有意義でした。

移動の車内では弓道に関してや他の様々なお話を聞くことが出来、道場内での練習とはまた違ったところから近づけたような気がします。

6月から大会直前までの合同練習では諸先生方にご指導いただき、射法射技も多少なりとも向上したのではないかと考えております。所属協会に帰っての稽古では会員の皆さんに協力いただいたことも忘れられません。今回の経験で弓道が私にとって、より一層大切なものになったと考えております。

最後になりましたが、今回の貴重な体験をさせていただいたことを、県弓道連盟とゆうゆうクラブの会員の皆様、志賀町弓道協会の皆様に心より御礼申し上げます。